

倉敷市をエリアとするコミュニティFM・エフエムくらしき(倉敷市白葉町)が二十四日、開局十周年を迎える。「地球規模で考えて、地域のために活動する」をスローガンに掲げ、ラジオ放送を通じて地域密着の情報を提供、倉敷のまちづくりに貢献してきた。大久保憲作社長(五九)にこれまでの成果や今後の展望などを聞いた。(田中泰)

「これまでを振り返ってみたいの感想は。あっといふ間の十年。厳しい経営環境の中、よく続けてこれたというのが正直な感想。開局時は経験者がおらず、番組作りやスポンサー集めなどすべてが手探り。失敗を繰り返しながら、だんだんと形を整えてきた。市民や地元企業の支援、社員

開局10周年のFMくらしき

大久保憲作社長

の熱意があったのでここまでやってこれた。一認知度もないぶん高まってきた。〇〇四年の台風被害の際

には、市内のケーブルテレビ局とつくる「倉敷コミュニティメディア」に多額の義援金が寄せられた。市民に信用してもらえようになったと、非



地域を育てる栄養素に

常に感動した。番組には大勢の市民が出ています。

民グループ同士の連携ができた。今年販売を始めた災害時の緊急告知FMラジオが必要。番組では、おも好評だ。

地域には、地域の小さな出来事を取り上げるメディアが必要。番組では、おも好評だ。

メモ

エフエムくらしき 倉敷市や倉敷商工会議所、山陽新聞社など民間企業が出資した第三セクターで、1996年12月24日開局。資本金1億3000万円。同市をエリアに24時間放送。2003年には、バラエティ法話番組「拝、ボーズ」が、コミュニティFMとして初めてギャラクシー賞ラジオ部門優秀賞を受賞した。周波数82.8MHz。

向けにも設置を呼び掛け面しており、災害時には同時に被害を受ける。協力して情報交換するなどすれば、被害を防ぐことが設立された。他のコミュニティFMとの連携も今後の抱負を。

岡山シティエフエムと養素。情報の発信がなったり、流入や交流がなっていたが、い地域は衰退する。都市間競争が激化する。これは、地域メディアが活躍する都市とそうでない都市では、魅力に違いが出てくるはず。これからの地域に良い情報の提供を続け、倉敷の発展に少しでも役立ちたい。

岡山や倉敷、笠岡は海に